

里せきもと



発行：せきもとさとづくり推進協議会

地域の皆様と共に

郵便局は「明治4年創業」現在140年以上にわたり、地域の皆様に支えられながら営業させていただいている会社です。

今日に至るまで、「公社化」「民営化」と様々な局面がありました。こうして変わりなく営業させていただいているのは、ひとえに地域の皆様方のご支援のおかげだと感謝しております。

堰本郵便局には様々なお客様がいっぱいあります。「年金のお受け取り」「遠方にお住まいの方への野菜の発送」「孫のため貯金」等……

改めて、郵便局は「お客様の生活になくはならない存在」なんだ！そして、「今以上に『お客様に気持ちよくご利用いただける郵便局』を目指していかねければいけないんだ！」と、日々感じているところです。

現在、堰本郵便局は3人で日々、業務に取り組んでいます。小さな郵便局ではありますが、「笑顔と花の絶えない【地域の公民館】のような温かみのある郵便局」を目指して頑張っています。

用事がなくても結構です。是非、お立ち寄りください。社員一同お待ちしております。

社員紹介

新沼 純一(局長) 写真 右

学生時代は【野球小僧】内野手「釣り・野球(顔に似合わず)花」を愛する47歳。

大波 峰人(主任) 写真 中

学生時代は【サッカー少年】鉄壁のディフェンダーでした。

「素直・温厚・正直」な好青年

八巻 香織(社員) 写真 左

学生時代は【吹奏楽(オーボエ)に夢中でした。】

今は息子の野球応援に奮闘中!

今後とも堰本郵便局をよるしく

お願いいたします。



地域に感じること

広報委員長 本多 祐一

令和2年は新型コロナウイルスの一年で、今年の行事はことごとく中止となり、町内にある熊野神社のお祭りもなく、地区のにぎやかさがなく物足りない感でした。とにかく、今は新型コロナウイルス感染防止のため3密を回避せざるを得ない状況です。

私も退職後、地区の活動に参加していません。気付いたら役員になってしまつて戸惑いました。皆さん優しく思いやりがあります。地域の中でもお互いに「親しき中にも礼儀あり」の気持ちが大切ではないでしょうか。

広報委員を担当して

委員 佐藤 利夫

日本には四季があり、どの季節も好きですが、一番過ごしやすい秋が好きです。今年は、新型コロナウイルスで様々な行事・イベントが取りやめになり、また観光地や温泉などにも行けない状況です。

私は高校野球を見るのが好きで、試合があると近場の球場に足を運んで観戦しますが、コロナ禍の中・春夏の試合が中止、秋は制限があり見ることが出来ず、来年を楽しみに待ちたいと思っています。

最後に、私は堰本に住んで20年余経ちますが、勤めていて地名も人も良く分からないこともあるので、これからいっそう慣れ親しんでいきたいと思えます。

編集後記

【編集委員のこと】

(S)

歳のせいとは言いたくないが、とにかく言葉がでない。皆さんに伝わる言葉が……悩んで今日も一日終わる。(H)

(R)

今の私の多忙は自ら作っています。人生、動きを止めないで過ごすもよし！ですね。あ、忙しい！

(R)

フカフカした愛猫の毛に頬ずりし、その温かさに秋の深まりを感じています。

(kazu)

ハウス春菊の定植が始まると深まりゆく秋を感じます。「コロナの今、一家団欒を鍋で楽しみましょう！」

(Toshi)

楽しみは食べることしかありません。この季節は何を食べても美味しいので、ちょっと太ってしまいました！

(祐)

仕事の関係で名刺交換がある内山先生に広報誌の原稿依頼。このような形でお会いできて「ビックリ」。いつもこやかで頼りになる先生でした。稲刈りに田んぼに行ったら草かイネか分からない部分があり「愕然」としたこの頃です。

表紙写真は、コンバインでの稲刈り風景。今年の稲刈りは遅れがちか。秋一面を。

活動報告

敬老祝い品をお届け

昨年までは堰本婦人会主催で敬老

会を開催していましたが、今年3月で婦人会が解散になり、市社会福祉協議会の敬老会実施団体助成金交付事業をせきもとさとづくり推進協議会と堰本地区社会福祉協議会で担当することになりました。今年も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、敬老会を計画することは困難な状況もあつて、堰本地区の75歳以上の高齢者の方々に心ばかりの品物をお配りすることとしました。会で準備後に各町内会でそれぞれ配布いたしました。



9月21日の敬老の日に藤橋町内の佐藤正三さん・喜子さんご夫妻に佐藤利夫藤橋町内会長から敬老祝品が贈られました。



ちょうど、養鶏の仕事をしてからの朝食時に伺いましたが、お二人で受領していただきました。これからもご夫婦揃つて、お元気に過ごされますようお祈り申し上げます。さらに地区内の高齢者の皆様も健やかに過ごされますようお祈り申し上げます。(担当：地域安全・健康福祉部会)

グラウンドゴルフ大会を実施

(担当：地域振興部会)

敬老の日、陽光台緑地公園で堰本3長寿会のグラウンドゴルフ大会が開催されました。当日天候が心配されましたが、雨は降らず、少し蒸し暑い中での熱戦が繰り広げられました。

今年も細谷シニアクラブが開催当番で運営準備を行い、参加人数は過去最高の48名になりました。残念ながら、終了後の懇親会は新型コロナウイルス感染症を考慮して行いませんでした。成績は次のとおりです。

(敬称略)

- ◆男性：優勝・幕田 国昭
準優勝・齋藤 正一
3位・佐藤 松雄
- ◆女性：優勝・佐藤クニイ
準優勝・幕田マサイ
3位・佐藤 光子



堰本女性セミナー

9月の学習は、15日(火)にボランテア活動として、交流館の湯沸かし室と調理室の清掃、調理器具や食器の確認と整頓を行いました。

当初、交流館周囲の除草と芋煮会を予定していましたが、天候と新型コロナウイルスで活動が変更になりました。

参加したメンバーが6班に分かれての作業です。調理室内では食器棚や各調理台の中をすべて一旦出して、壊れや汚れを確認し、きれいに数を確認し元に戻しました。

また、4台ある調理台についている1〜4の番号に合わせて鍋やザル、フライパンなどの番号を確認しながら「違う団体の名前がある」とか「数字が薄くなっている」と声かけながら、細部にもよく気配りして行いました。これからご利用される方々も気持ちよくお使いできると思います。

次回女性セミナーは11月17日(火)

「ボケ防止・脳トレ学習」を交流館大研修室で行う予定です。

(担当：生涯学習部会)



コロナを正しく理解し、新しい生活様式を実践して、笑顔で頑張りましょう！



横山春美さん
(藤橋)
介護職を1年半。日々勉強です。特に高齢の方が対象なので、自分も感染しない、感染させないを今までより心がけています。



大友佳子さん
(上原)

一日も早い収束と、手洗い・笑いで免疫を高めて、コロナに勝とう！

大橋秀夫さん(原)
退職後、実家近くの家を構え農作業を行っている。マスク・手洗い励行など新たなマナーが必要になった。コロナ禍で飲みに行けない！埼玉の家族ともなかなか会えないけど頑張っています。



大友政美さん
(大門)

毎日、犬と散歩しています。体力作りで免疫力アップですね！



澁谷武雄さん
(東木田)
高齢者になったから、静かにしてるよ！(畑仕事に精を出しながらの一言でした。)

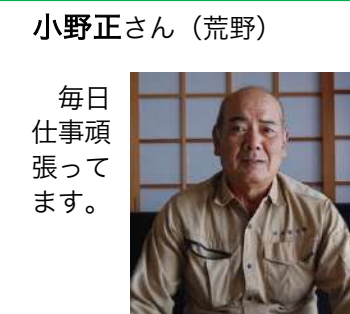


菅野喜之さん
(中の内)
家庭菜園を楽しんでいます。新鮮な野菜を食べて、元気な体を作ろうと思います。



山下静子さん
(道林)
GOTOトラベルで忙しいけど笑顔で頑張ってます！

橋内善和さん(間野)
元気に会社に行きます。



小野正さん(荒野)
毎日仕事頑張ります。



橋内武さん(中沢)
元気に農作業頑張ります。

桃井正信さん
(入ノ内)
コロナに負けず、上を向いて頑張ってます！



遠藤順子さん
(せきもと児童クラブ)
子ども達と一緒に一日も早く例年通りの行事が出来ることを祈っています。



原田みよ子さん
(大正寺)

稲刈りが終わりホッとしています。

(里づくり女性部会長のみよ子さんはスポーツウーマン、体協バレー部も担当しています。来月の資源回収、よろしくね！)



桃井浩之さん(浅間・伊達市)
コロナウイルス対策室勤務)コロナに感染しない為に、マスクの着用・手洗い・人との距離を取ることが重要です。

新しい生活様式を実践しています。



せきもとさとづくり推進協議会

ものごと

細谷寺住職

岡本英治



昨日の晩ご飯の中身をなかなか思い出せない。準備万端と思いきや忘れ物をして一度に出かけられない。こんな有様の今のわが身を照らし合わせると、いわゆる「記憶の風化」は致し方のないことのように思われます。

しかしながら、辛く苦しい体験はそれこそ心と体に刻み込まれ、時に意識の奥底に沈み、また浮かんでくることはあっても、決して風化することはありません。

近年、天変地異といつて差し支えない災害が頻発しています。

間もなく丸十年の時間になろうとしますが、私たちはあの東日本大震災を体験し原発事故の被害をこうむりました。こうした災害は、私たちの想像をはるかに超えるものでした。

いま「想像を超える」と書きました。この「思ってもみない」出来事は、同時に「思うようにならない」「ままならない」出来事、すなわち私たち人間にはどうしようもない事柄です。

普段は意識しませんが、そのような災難・災害は、歴史上、過去にいたるところで何度も起きています。疫病、また自然災害も同様に。歴史を紐解けば、それは明らかなことです。

おそらく昔の人々は、そのような災難・災害のたびに、自らの無力を知り、神さまや仏さまの救いとご加護を願ってきたに違いありません。技術も医療も十分ではなかった時代には、それ以外にできることはなかったと思われま

細谷寺のご本尊は「観音さま」です。実に四百年にもなる昔から、この地までお参りに来られた人々の切なる願いを受け止めてこられた仏様です。

生き難い、思い通りになることが、ごく僅かしかない時代に、無事に命を長らえることは、大昔の人々にとって、まさに神仏へのご加護を祈ることではかできなかったと思われま

AIやネット環境など、二十一世紀の今を生きる私たちは、昔とは比較できないほどの科学や医療などの技術があります。もちろん、国の力、住むところでの違いは未だに差があり、その恩恵に偏りはあります。しかし、大きく見て人類の「思い通りにできる」ことは飛躍的に進歩しました。

それでもなお、今回の新型コロナウイルスと、おそらくは地球規模の気候変動は、少なくとも現時点では、人類の「思ったようにできる」能力を超えた、まさしく「ままならない」事態です。私たちは、このどうしようもない状況に直面した今、再度この「ままならなさ」に思いを致し、深く自らを省みるべきなのではないでしょうか。

もし、この非常な困難にも意味があるとすれば、その「ままならない」ことから、人としての謙虚さを取り戻すことなのかもしれません。

人は何でもできるわけではなく、何をしてもよいわけではありません。

改めて人間としての在り方を根底から見直す、従来とは違う「ものさし」が必要と感じます。



笠石の地名について



菅野源太郎さん

鹿ノ子町内会

堰本のほぼ中央に笠石という地名がある。JA堰本支店があり、準秩父第19番札所「笠石観音堂」のあるあたりである。平成4年に梁川町町史編集委員会が発行した「梁川町の地名」には、昔大きな笠形の石があつたためとある。そのような石はどこにあったのだろうか、誰もみたことがない。あつたという話を聞いたこともない。なにかの工事の際、土の中に埋められてしまった可能性もあるが、そんな話をきいたことがない。だつたら、なぜ笠石という名が生まれたのだろうか、私はそれを説明することにした。

観音様の近くの岩の上に、戦没者の「忠魂碑」が建っている。これは明治41年に建立されたもので、西南戦争、日清、日露戦争の戦没者13柱が祀られている。その付近を調べてみた。碑が建っている岩を下の方から見ると笠形に見えないこともない。

大関から堰本小学校前を通って新田に通ずる今の道路は、かなり掘り下げて造られたため、堀切と呼ばれている。したがってこの道路からは忠魂碑は観えない。しかし旧道は堰本村役場(旧堰本研修センター)の前を通り、観音様の敷地から、市の水道のタンクのあたりを通って新田へと続いていた。つまり、今の道路よりずっと高い所を通っていたのである。

この旧道からは碑の建っている岩がよく見えたことだろう。この岩が笠形に見えたことから笠石と

呼ばれるようになったのではないだろうか、そう、笠形の石など最初からなかったのだ。という思いを強くした。

しかし、碑の西、市の水道タンクのあるあたりに、昔大きな石があり、愛宕神社に獅子舞を奉納する人達がこの石に腰をかけて休んだという話を聞いた。その石が笠形だったとしたら、私の笠石の説は間違いということになる。そこで、その石がどんな形だったか調べることになった。

昔、新田に造り酒屋があり繁盛していたという。その酒屋が庭を造る際、ここにあつた石を運んだ。時移り、この屋敷は今、町通りの阿部佐平治さんに渡っていると聞いた。早速阿部さん宅を訪ねた。その石は心字の池に使われていたが、50年程前に取り壊し、石は保原の植木屋にやったので、今はどこにあるか分からないという。石の形をお聞きしたところ、長さ2.7m、高さ1.3mくらいのもので、形はだるまのようなので、だるま石と呼んでいたという、これを聞いて私は、やはり笠石の名の起りは笠形の岩だったと確信した。ところが、阿部さんは観音堂や碑のある上方は昔畑で、そこに笠形の岩があつたような気がすると言っている。そこに行ってみた。そこは笹が生い茂り、葛藤に覆われていて、それらしきものはみつけることは出来なかった。

今、「せきもと」とづくり推進協議会では、この辺りの笹を刈り、雑木を伐採し、山桜を残す「自然と触れ合う里山整備事業」に取り組んでいる。

ここに立つと、伊達平野が一望でき、蔵王・半田・吾妻・安達太良の山々が見える素晴らしい所で心癒される。整備事業が完了した際には、お参りがてら、ぜひ足を運んでいただきたい。その頃には笠石の地名の由来が



多趣味の人生 いきいきと



佐藤長寿さん 大正寺町内会

昭和2年生まれ。まもなく93歳を迎える私は、8男1女の末っ子に生まれま

した。父45歳、母46歳の時でした。ひ弱そうな子どもで、名前に願いを込めて「長寿」と名付けたそうです。兄たちも4人は長生きで、白寿を迎える兄もいます。

昭和17年3月、国民学校高等科を卒業しました。私は上の学校に行きたかったけど、兄4人が戦争に召集され、百姓をやる人がいないため、学校にはいけませんでした。それに父は病弱でした。昭和20年9月10日に軍隊入隊の令状が来ていましたが、8月15日終戦となり、全て終了しました。21年、23年に兄さんたちが帰ってきて、俺はこの家にはいられないと思いついて、俺は探しましたが、兄たちに農業はお前がやれと言われ、仕方なく百姓を続けるようになりまして、今は農業を楽しんでいます。昭和28年には桃の苗を植えました、この辺では早い方だったと思います。

また、志賀青果と露地イチゴを契約栽培しましたが、霜にやられ失敗に終わりました。



新型コロナウイルスによる子どもと新型ウイルス



内山清一さん 陽光台町内会 (臨床心理士・公認心理師)

子どもは大人が考える以上に過敏で不安や恐れを抱きやすいものです。そのため何よりも安心感を与えることが基本になります。

特に、新型コロナウイルスは未知であるために、不確かな情報が流れ、過度な緊張や不安感を抱える恐れがあります。

そのためにも、子どもには、わかりやすい言葉で、正しい情報を説明しましょう。そして子どもの気持ちを聞きましょう。

話を聞く前に、どんな気持ちでもフタをせずに、子ども自身が自分の気持ちに気づけるように手助けをしましょう。どんな気持ちでも伝えてよいことを伝えましょう。

話し始めたら、どんな気持ちであっても否定せず、受けとめましょう。

「いやだったんだね」「こわかったんだね」「そうだね。そう思ったんだね」などを、子どもに伝え返すことによつて、受けとめたことを伝えましょう。つらくても子どもなりに頑張っていることを認め、褒めましょう。

野菜は種まきから育てるのが好きです。すごく丁寧に手をかけて収穫するの

が、とても幸せに感じます。夜の晩酌は薬に等しく大好きで日中働いています。また、農業の傍ら、土木業は約40年活躍しました。



趣味もいろいろあり、若い頃は芸能大会で浪曲をや

りました。昭和32年頃、NHKラジオ放送で夜7時30分から「農家のいい」で民謡があり、山形県の新庄節を何回か聞くうちに好きになり、民謡を歌うようになりました。仕事で上棟式の祝いの席では大工さんに頼まれ、祝謡と民謡を唄ってみんなに喜ばれていました。本格的に民謡を学び、あちこちの大会に出場し入賞もしました。それから尺八も勉強しました。平成21年3月に島根県の玉造温泉に旅行で行き、安来節のどじょうすくいと一緒にいった仲間3人で習ってきました。「修了証書」をいただいて、敬老会など時あるごとにお披露目をし、今では講師で呼ばれることもあります。

グラウンドゴルフ、ゲートボールは大好きなスポーツです。ゲートボールでは7月29日、新田チームが町老人連合会主催で優勝しました。旅行も好きで「しずりべの里旅行会」の顧問になっていて、旅行は21年続いています。今はコロナでなかなか旅行に行けないのが残念です。

そうすることで、子どもは安心感を取り戻すことができます。経済的影響と、生活の変化によるストレスは大きなものがありますが、大人のこころの状態は、子どものこころの状態に大きく影響を及ぼします。

すでに取り組んでおられることもありますが、子どもと一緒に家庭の中での過ごし方を話し合い、生活リズムが崩れないように気を付けましょう。栄養のある食事、適度な運動、発散できるような楽しい活動を家族で見つけていきましょう。

親子でともに時間を過ごせるときには、できるだけリラックスする時間を共有しましょう。大人のセルフケアも大事です。リラックスできる方法を見つけ、そのレパートリーを増やしましょう。

また家族以外の友人、親戚など社会的なつながりを維持することも大切なことです。新型コロナウイルスの収束の見通しが立たず、ふだん通りの生活がしにくい状況がまだまだ続きそうです。

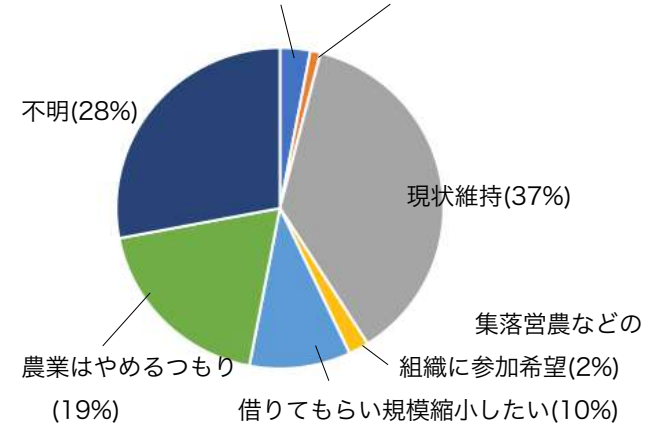
ストレスを溜めないように工夫して、家族でこの難局を乗り越えましょう！

魅力ある農業と、堰本の農地を守り続けていくために。



農業はとても魅力のある仕事です。日の出とともに朝起きて汗をかく。それが収入につながる。頑張った分だけ十分すぎる程の答えが出る。定年はなく、体の続く限り元気でいられる。新たな出会いもあります。規模の大小にとらわれず、先輩が大切にしてきた堰本の農地を、ずっと守り続けていきたいと考えています。今、関係各所（農地中間管理機構・農業普及所・伊達市農政課・農業委員会・JA 農業振興課）が「人・農地プラン」を構築すべく、総力で応援体制をしいています。かけがえのないふる里のために、私たちは全力を注ぎたいと考えています。（堰本地区農業委員 代表 渡邊政幸）

中心経営体となり規模拡大希望(3%) 規模拡大希望(1%)



- 堰本地区農業の将来に関するアンケート「あなたの農業経営・農地を今後どうしたいですか?」を令和元年11月に実施しました。結果が右の円グラフです。
- 当地区の現状については、耕地面積 601.2ha、うち 70 歳以上の農業者の耕作面積は 156.2ha となっており、中心経営体希望の方が引受可能な面積は 32.5ha という結果です。約 10 年で 100ha (100 町歩) 以上の農地が遊休農地または耕作放棄地となる可能性がある事を示唆しています。
- 人・農地プラン**の必要性について（農水省より抜粋）
「これまで地域の農業を支えてこられた方達は、地域での徹底した話し合いにより、ほ場整備、機械・施設の導入、地域の共同活動などに取り組み、地域の農業・農地を守り、発展させてきました。一方、こうした方達が高齢化する中で、これからの地域の農業を担っていく世代が、効率的な農地利用やスマート農業を行うための農地の集積・集約化を進めていくには、まさに「待ったなし」の状況です。地域の皆さんがこれまで営々と築き上げてこられた地域の農業・農地を、それを取り巻く伝統や文化、自然景観などと一緒に、子供や孫の世代にしっかりと引き継いでいきたいと思いませんか？」

今こそ、人・農地プランの実質化に取り組み、地域の話し合いを活性化して、「将来にわたって地域の農地を誰が担っていくのか」「誰に農地を集積・集約化していくのか」を地域の方々の話し合いで進めていくことが、人農地プランです。」

農業の魅力について「一言！」頂きました。

「とにかく楽しい農業でした。昔は、苺の苗を『山上げ』するために朝2時出発で北塩原まで行きました。いい思い出です。」
（屋敷通のS吉雄さん）

「（スーパーの産直主体なので）値段を自分で決められるところがいいです。時間に自由がきく所も利点かなと思います。」
（大正寺のK 善亮さん）

「毎日4人でワイワイ野菜収穫。今日も一日楽しく明るい農村！」
（大関の「森四中」のみなさん）

「収穫の喜び。生涯のパートナー。人生のいきがいない！」
（中ノ内のK 嘉昭さん）

「どんな作物でも可愛がって育てれば応えてくれるし、収穫する時のワクワク感は何とも言えないので日々楽しみながら働いています。」
（鈴竹のS 美和子さん）

「太陽と愛情がいっぱいあびた、家庭用野菜を食べて、孫達がすくすくと育っています。」
（大門のW 里子さん）

「農業は楽しいです。我が家では果樹・野菜・あんぼ柿の複合経営をしています。JAに出荷する他に直売所・道の駅にも出しています。お客様の声を直に聞く事が出来るのでとてもやりがいを感じています。耕作放棄地が問題になっていますが、畑を荒らす事がないように身体が動く限り続けていきたいと思えます。」
（中沢のK 文江さん）

「四季折々の風景の中で、四季折々の作物をつくり、失敗したら『百姓の来年!』と言い訳してまた作る。この前向きさとかくまじさが好きです。」
（原のO 恵子さん）

「楽しいから続けられるし、あした何やっべと夜考えるのも、楽しいし、自分の作った野菜を喜んでくれたらまた嬉しいよね!」
（鹿ノ子のS 和夫さん）

「自分の考えや努力が反映される職業なのでとても充実しています。」
（浅間のS 隆夫さん）

堰本女性セミナー・堰本いきいきカレッジ合同学習会 菅野善昌教育長の講演会を開催



8月20日、堰本地区交流館大研修室において教育長講演会を開催し、41人が参加しました。菅野善昌教育長は新田出身で、「堰本の思い出と豊かでたくましい子どもを育成するために」をテーマに、堰本での生い立ちや小学校時代、教員となった経歴など、身近に感じられるお話をお聞きしました。

司会を菅野生涯学習担当が行い、はじめに渋谷会長からあいさつと講師紹介がありました。講演では、堰本の思い出や、昨年参観した堰本小学校学習発表会の感想も入れ、伊達市の子どもの現状と、次代を担う子どもたちに求められる「生きる力」について話されました。さらに大人の役割として「ヤマアラシの距離」の話、心の自然治癒力と免疫力を強くすることで子どもの発達課題と一緒に乗り越えることが大切とお話いただきました。

最後に地域の役割として、子どもたちにふれあい、大人が手本となって継続して豊かな人間性や社会性を育てていくことが大事と話されました。



講演終了後、受講生代表として新田の佐藤長寿さんから、教育長にお礼の言葉を述べていただきました。参加された方からは、感想として講演は、「地元の話から入り親近感のある内容だった」子育て・孫育ての終了した年代が多かったため、「もっと早くに聞きたかった」という声もありました。主催者としてはコロナ感染防止策に、マスク着用をお願いし、冷房をかけて窓を全部開け、空気の流れを良くして、さらに椅子の配置も考慮しました。

（担当：生涯学習部会）

いきいきカレッジ11月の学習
11月17日（火）10：00～ 現在募集中

ふるさと学習・歴史探訪②
砂子堰疎水（大関）と洞雲寺・羅漢（新田）
新山古墳（細谷）方面を予定しています。

いきいきカレッジ12月の学習
12月15日（火）

健康学習『スポーツ吹き矢体験』

いきいきカレッジ1月の学習
1月21日（木）10：00～

開催場所：堰本地区交流館大研修室
健康学習 『スポーツ吹き矢体験』
開催場所：堰本地区交流館大研修室
円福寺住職 石井祐聖氏による講話

※女性セミナーとの合同学習

堰本いきいきカレッジは、年齢性別に関係なく、ご自身の心の豊かさや生きがいのための学習の場です。どなたも参加できます。

防火水槽の塗装修繕作業を継続実施

9月は間野地区および大門地区の防火水槽の塗装修繕を実施しました。鈴木健一さん・渡邊益蔵さんのお二人に、サビ落とし・サビ止め・塗装の一連の作業を実施していただき、きれいに仕上がりました。写真上は間野地区、下は大門地区の塗装の仕上がった防火水槽です。

（担当：地域振興部会）



堰本文化祭について

隔年実施の堰本地区文化祭は、本来ならば今年開催が、一般のコロナ禍を考慮して、協議の結果、令和2年度は中止としました。コロナ騒動が落ち着けば、令和3年度には実施したいと考えています。

（担当：地域振興部会）